

藤木鉄工の増築棟が竣工

現場
ルポ

Sグレードファブリケーターの藤木鉄工（本社・新潟市、社長・小林輝昭氏）はこのほど東港工場（新潟県聖籠町）の新社屋増築棟を建設し、鉄骨部分に全量JFEEスチールのGXスチールJGreexを使用した。2月下旬から業務を開始した。S造4階建てで延べ床面積は2763平方メートル。採用したJGreexは341メートル。今後太陽光パネルを設置する予定で、再エネ

鉄骨部分、全量JGreex採用

太陽光パネルなど「ゼブレディ」6星認定取得

活用、空調、断熱性向上が評価されZEB Ready（ゼブレディ）認証の最高ランク6星を取得した。

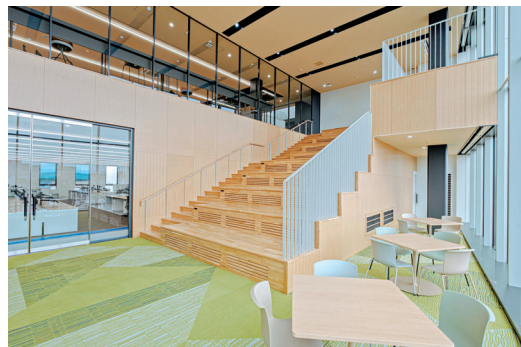
外観は北前船（江戸期の帆船）をあしらい、「創業の地（新潟市中央区入船町）にちなみ先進的なイメージで帆が風を受けて挑戦し続けるデザインを採用した」（小林社長）。

エントランスのエレベーター脇にはJFEEスチールの建築構造用TMCP鋼HBL630C―Sマークが入った4面ボックスの一部を見せる設計だ。

1階は来客用駐車場と受付エントランス、2、3階は執務スペース、4階は多目的スペース。4階は災害時の一時避難場所として太陽光、蓄電池と連動し、憩いの他、講堂のような非常用電源を備えた勉強会、講習会でも活用できる。要所に物件ごとチームで柔軟にリールのカーペットを配置し、自然な空間を演出。170名LEDに会して業務が行えるの未来予想図を語り



（上から）北前船をイメージした外観、多様な使い方ができるコミュニケーションボイド、フリーアドレスを採用



小林社長「次の100年築く礎に」

ス、4階は多目的スペース。4階は災害時の一時避難場所として太陽光、蓄電池と連動し、憩いの他、講堂のような非常用電源を備えた勉強会、講習会でも活用できる。要所に物件ごとチームで柔軟にリールのカーペットを配置し、自然な空間を演出。170名LEDに会して業務が行えるの未来予想図を語り

る。コミュニケーションの質向上を期待している。これを機に業務のデジタル化を一步進めたい」（同）。

来年初めにはモニターで受注物件や工場の様子が映し出され、進捗もリアルタイムで共有できる。鉄骨ファブリケーター（杉原 英文）

合つスマートファクトリーのチームは新卒、若手を中心にイメージ動画を製作した。若手に夢を与え、モチベーションアップが狙い。新社屋建設は創業100周年プロジェクトの一環で、旧社屋は今年後改装工事を経てサテライト棟として生まれ変わる。11月末竣工予定。

